

制的に片付けてしまうとすると、母親が病院から自宅に帰ってきた時、精神的なショックを与えるかもしれないし、どうしたらいいだろうという内容で、こうした内容の電話相談は結構多くかかっています。

「そうした相談にはどのように答えているのですか」

まず「ご本人が片付けたいと言っているのですか」と確認しますが、そうでないケースがほとんどです。そんな場合は「親を説得しないとこちらではどうしようもできません」とお伝えします。片付けていないその状態が心地良いという人もいます。またへたに片付けをしてし

まって認知症になってしまったら問題です。中にはお子さんが一生懸命親を説得して、ご本人が「それでは」と納得されて整理したケースもありません。

大きな生活変化が 事前整理のきっかけとなる

「事前整理をお願いする人たちはどんな方が多いのですか」

肉親が亡くなって自分が遺族になった時に、何がやつかいだったのか記憶に残っている人は、どうすればいいかが分かっていますから、手をつけやすいですね。

また人によつてですが、病気や施設に入るといのがきつかけとなつて事前整理を依頼してくるケースがあります。子どもと同居することになったことを機会にお願いしてきた人もいます。一人暮らしや独身の人は「自分が死んだら」ということを考えると不安になり、元氣なうちに少しずつ事前整理をする人もいます。これは女性に多いパターンです。

自分の目が黒いうちに、整理しておきたいという人は、あるものはゴミとして捨てようが、どうしようが構わないけど、これとこれは粗末に扱われたくないというものはつきりして、自分がつきりしているうちに整理しておこうという人です。

「遺品整理、事前整理を数多く手がけてきた吉田さんは、整理することに対してどのような考えをお持ちですか」

片付けるということ事態、誰かにやつてもらえばいいことだと思いません。死んだ後のことをいろいろ心配しなくてもいいと僕は思います。その人のことをよく分かっている人、故人の身内が行うのが一番いいのです。しかし身内の人に時間がかかったり、やむを得ない事情があつてできないというケースも多々あります。遺族が僕たちに代行させてやっているというのが遺品整理です。年間1500件ほど遺品整理をしています。それに比べたら事前整理の依頼はまだほんの少しです。

長年使ってきたものは、ペットのようなもので、それがあつたことによつて住まいが癒しの空間になつていゝこともあります。自分自身が人生を豊かにするために揃えてきたものを、死んだ後のことを考えて無理に捨てる必要はまったくないと私は思います。

そうではなくて、たまつてしまったものを整理して気持ちも空間もスッキリしたいという前向きのものであるなら、捨てるのもいいことだと思えます。

また大切なものは奥にしまつたり、壊れるからなるべく使わないようにしている人が多くいますが、それらは生きていく間にとことん使うことが、自分にとつても物にとつてもいいと思えますよ。

